

令和6年度 島根県立浜田高等学校（全日制課程） 学校評価

学校教育目標		目標	手立て	次年度 改善方策	学校関係者評価
三二一 理 道 量 想 し か い と い な い 知 識 心 人 性 実 と 関 係 性 な 努 力	主 幹	1. 生徒募集活動の強化	(1)『学校案内』の充実 (2)「オープンスクール」の充実	・浜高卒業後の進路が中学生にとっても見通せるように、『学校案内』などの広報誌へ卒業生（10年前、20年前、30年前）のコメントを掲載する。 ・オープンスクールについて、浜高生と中学生の心理的距離を縮めるイベントになるよう心がけた。引き続き生徒会と連携しながら充実を図りたい。 ・中学生保護者にも学校の取組を理解してもらうため、平日夜等、保護者が参加しやすい時間帯に、理数科の生徒募集にも力点を置きながら学校説明会を開催する。	
		2. 地域社会との連携・協働の推進	(1)HAMADA教育魅力化コンソーシアムと連携した「魅力化事業」の推進 (2)学校運営協議会の協働体制の構築、運営	・ホームページの掲載内容更新について、各分掌で点検するよう働きかける。 ・今年度作成した学校PR動画をホームページ上で公開し、学校の魅力化をさらに発信していく。	
		1. 各分掌等との密接な連絡・調整による学校組織の円滑な運営	(1)学校行事の内容の再検討と各分掌等の連絡を丁寧に行う。 (2)指導者用端末・生徒用学習端末などICT機器管理運用を円滑にする。	・来年度も学校行事については、全教職員と連絡をとって、情報共有をしっかりと丁寧に行っていく。 ・規程集や危機管理マニュアルの見直しをはかる。	
		2. 浜高の魅力を伝える情報の発信	(1)ホームページの掲載内容を再検討し、整理する。 (2)学校行事の様子を浜高通信やホームページを通して適時発信する。	・「浜高通信」「各種奨学金一覧」などは、eメッセージを通じて配付していく。 ・個人情報の取り扱いに注意しながら、よりタイムリーな情報をホームページに掲載していく。	
		3. 保護者・家庭との連携の強化	(1)PTA活動が円滑に行えるように、活動内容の再検討と連絡を丁寧に行う。 (2)各種奨学金制度等の的確な情報を提供する。	・「欠席連絡」「文書配付」など、eメッセージを有効に活用していく体制をつくっていく。 ・サーキュレーターや扇風機を活用し、冬季の教室における空気循環をはかることで感染症対策にも努めていきたい。	
	教 務 部	1. 高い知性の育成	(1)ICTを有効に利用した「主体的・対話的で深い学び」「わかる・伸びる」の授業による確かな学力の育成 (2)授業時数の確保及び適切な成績処理の遂行 (3)多様な学力に応じた指導（先導と伴走の使い分け）の実施	・教育個々の指導方法や指導技能の向上のために年度当初から教科内・外で授業を互見する雰囲気をつくる。 ・11月公開授業では、保護者・外部教育関係機関にもっと参観していただけるよう工夫する。 ・教科主任会で各教科が実施している多様な学力への効果的な指導を共有する。	
		2. 効果的な生徒募集と適切な入学者選抜の周知と実施	(1)中高連絡協議会、入学者選抜説明会等での浜田高校の魅力発信 (2)今年度開始の新しい入学者選抜の適切な周知と実施	・本年度の新しい入学者選抜を検証し、来年度に活かす。	
		3. 高大接続と新学習指導要領への対応	(1)新教育課程の実践・検証、及び令和7年度入学生教育課程の編成 (2)大学共通テスト・個別試験に対応する教育課程の研究 (3)観点別評価の着実な実施と改善	・新教育課程大学入試共通テストが終わり、本校教育課程を共通テストの結果を基に検証する。 ・観点別評価・指導の実施状況を継続して確認・共有し、変更の必要があれば規程を改定する。	
		1. 基本的生活習慣の確立	(1)校則を主体的に遵守する態度を身につけさせる。 (2)生徒心得等の見直しを行う。	・生徒自身が校則に関心を持ち、見直しを企画できる環境づくりを行う。	
		2. 生徒会・部活動等の活動支援	(1)生徒会活動の活性化を図り、情報発信をおこなう。 (2)部活動を統括し活性化を支援する。	・生徒会からの情報発信を工夫していく。	
・地 域 に 信 頼 さ れ、 地 域 の 期 待 に 応 え、 地 域 を 支 え る 学 校	生 徒 部	3. 健康・安全・快適な寮生活の支援	(1)寮心得に基づき、主体的な学習、整理整頓、諸届など基本的な生活習慣を身につけ、他者の価値観を尊重し、協動的な生活が送れるようにする。 (2)保護者および教職員との連携を深め、寮生の学校・寮での状況を早期に把握し、生活を高められるように支援する。	・寮（浜高寮・浜田市寮）の舎監、他校の寮担当者との連携を取り、寮での生活について校内での情報共有を行う。	(1)学校評価アンケートについて 本校への満足度について、保護者アンケート結果は例年と変わらず評価が高いが、生徒アンケート結果は3年生の満足度が低い。コロナ禍で学校行事がほとんどできなかった最後の学年であるが、今後はさらに進路指導の充実とともに、生徒の積極的に挑戦する活動や体験を後押しし、学校行事も活性化させることで、魅力ある学校づくりに努めてもらいたい。
		4. 人権教育・道徳教育の推進	(1)計画的に人権教育を行い、様々な人権課題について主体的に学ぶとする態度を身につけさせる。	・生徒の実態にあった人権教育、人権教育LHRを計画、実施する。	
		5. 「浜田高校いじめ防止基本方針」に基づく指導の定着	(1)全教職員の共通理解のもとでチームとして対応する。 (2)保護者、専門機関、地域等と連携して対応する。	・いじめ対策について、年度当初に教員間の情報共有を行い、保護者・生徒へ基本方針の周知を行う。	
		1. 高い目標を持ち、その実現のための積極的な挑戦を支援する。	(1)学年会や教科会、HIRAKUなど、校内組織との連携を図る。 (2)地域や卒業生、県内各大学など、校外組織との連携を図る。 (3)医師体験や看護体験など、進路学習や体験学習を充実させる。	・1・2年部との連携を強化し、継続的な指導の充実を図る。 ・高大連携推進員や浜田市コーディネーターの支援も得つつ、様々な体験活動に積極的に参加し、進路実現につなげている生徒も多いことから、引き続き連携を図る。	
		2. 目標を実現するための学力の充実を支援する。	(1)模擬試験を計画的に実施し、その結果の処理と情報提供を迅速に行う。 (2)補習や特別講座を効果的に編成し、実施する。 (3)面接や小論文の指導を通して、新しい入試への対応を図る。	・模擬試験の事後の分析や活用が課題であり、オンラインコンテンツを活用していくことを検討する。 ・進路指導に関わる教員研修会は来年度も継続して行う。	
	3. 一人一人の志望や能力・適性を尊重した進路指導を行う。	(1)進路検討会の充実を図る。 (2)進路講演会、学年集会、学年PTA、ホームページを通して進路情報の提供に努める。	・PTA進路講演会への参加者を増やす取り組みを行う。		
	グ ラ フ ィ ッ ・ D A V N C I ・ h 多 主 先 進 模 体 見 識 性 性 性	1. 健康教育の推進	(1)生徒の心身の健康に対する意識を高め、自己管理能力を育成する。 (2)感染症・熱中症等の対策を適切に講ずるとともに、予防啓発に努める。	・各種感染症の対策については、地域の感染状況に注意を払いながら、引き続き丁寧に対応していく。 ・感染症流行時には、学年部と連携し予防に努める。 ・生徒の健康について、自己管理能力をさらに高めるため、適時、保健だより等による啓発や保健室入室時の個別保健指導に努める。 ・浜高祭での熱中症を予防するため、他にできることはないか検討する。 ・各教室の換気の必要性を呼びかけ、周知徹底を図る。	
		2. 教育相談・特別支援教育の推進	(1)各学年体や学年教育相談CNと情報を共有し、速やかに生徒の実態を把握する。 (2)必要に応じて生徒支援部会を開き、多角的な視点から、個別のニーズを有する生徒の実態把握に努め、具体的支援を考える。 (3)生徒支援部会の内容を受け、必要に応じてIセンター室や外部機関と連携して具体的支援を実践し、生徒支援委員会へつなげる。	・生徒との関わりで担任の先生が一人で抱え込むことのないよう、学年部と連携を取り、引き続き対応していく。 ・生徒支援委員会を、より一層有効で実効性の高い会となるよう努める。	
		3. 安全・安心な環境整備の推進	(1)生徒・教職員による清掃活動の充実を図る。 (2)年3回の安全点検を実施し、事務局と協力して環境の安全性を確保する。	・安全点検について、年に一度は生徒の意見も汲み取って実施するなど、具体的方策を提示し実施する。	
		関 書 研 究 部	1. メディアセンターとしての学校図書館活動の充実	(1)図書館および図書館資料を活用した学習の機会を増やす。 (2)読書指導や朝読書の実施、Web検索システムの周知により読書機会を増やす。	・図書館の利用が娯楽としての読書以外にも広がってきているため、「図書の窓から」などで図書館の様々な活用方法を広めていきたい。
2. 「新学習指導要領」に関連する学びの研究			(1)生徒が夢を発見し、その実現に挑戦する機会を提供できる「HIRAKU」のカリキュラムを研究する。 (2)主体的・対話的で深い学びを実現する探究としての「HIRAKU」のカリキュラムを研究する。 (3)キャリア・パスポートを教育活動の振り返りに活用する。	・HIRAKUの効果的な実施につなげるために、該当学年会はじめ関係の教職員との連携を早く、またより密にしていきたい。 ・HIRAKUの内容の精選および既存のものについては、ブラッシュアップを関係の会議等を通じて、今後とも進めていきたい。 ・キャリア・パスポートのICT活用を踏まえて、より活用化を図りたい。	
3. 理数科の充実	(1)理数探究を通して他者と協働する体験により、多様な個性を尊重できる感性を育てる。 (2)校外研修を通して、広い知識と視野を持ち、将来を見通す力を育てる。		・理数科の多様な企画は年度を重ねるごとに少しずつ充実させてきた。来年以降も丁寧な企画や運用を心がけて、生徒の活動にかかわる部分を充実させたい。		
4. 高等学校DX加速化推進事業のための基盤整備を行う	(1)情報等の教育を重視するカリキュラムの実施に向け、関係部署との連携のもとで準備を進める。 (2)ICTを活用した探究的な学びを強化するために必要な環境整備を行う。		・今年度の準備としては遅滞なく行えた。今後は周知にも力点を置きたい。		
シ ス テ ム 推 進 シ ン ド ロ ギ イ 校	1. 高等学校の特別支援教育推進に向けた取り組み		(1)圏域内の各高校での個別的教育支援計画の作成率を上げ、それを活用し、共通理解のもとで支援が実行されるように具体的な手続きやスケジュールを継続的に示していく。 (2)障がいの有無に関わらず、すべての生徒を対象とした支援が実施できるように、各高校の具体的な取組の実践について助言する。	・圏域内の各高校での個別的教育支援計画の作成率を上げ、それを活用するところまでは至っていない。よって、共通理解のもとで支援が実行されるように具体的な手続きやスケジュールを継続的に示していく活動については継続的に行っていきたい。	
・・・ 教 量 高 か い 良 な 知 識 心 人 性 関 係 性 					